

第2回 2020年受験 公務員試験の傾向と対策

日時：2019年5月14日（火） 16:20~17:50

場所：文学部B251講義室

対象：来年就職活動に臨む3年生・M1生を中心とした全学生

講師：野口宗彦氏（広島大学生協内公務員試験対策担当）

今回のリテラアワー講座は、講師に広大生協で公務員試験対策を担当しておられる野口宗彦氏をお招きし、公務員試験の傾向と対策について熱く語っていただきました。

野口氏が強調しておられたのは、孫子の兵法にならって、まず「敵を知れ!」ということでした。ここでいう「敵」とは、自分が狙っている公務員試験の日程、内容、仕事の内容等の具体的な情報です。また、「若いうちにいろいろな体験をして、その経験を踏まえて思ったことや考えたことを自分の言葉で言えるようにしましょう。」「こうしてはいけない、これは違うなどといった方向性・可能性を自分から狭めるのではなく、プラス思考で。」という助言も、きっと参加した学生の皆さんを奮い立たせたのではないかと思います。

【講演内容】

公務員は「国家公務員」と「地方公務員」に大別されます。さらに、「国家公務員」の職種には、行政関係で国家総合職（いわゆる官僚）、国家一般職、国税専門官（税収面での税務スペシャリスト）、財務専門官（支出面での財政・金融のプロ）、労働基準監督官などがあります。「地方公務員」は、都道府県、政令指定都市・特別区、東京特別区（東京23区）と市町村の職員に分かれ、行政事務、学校事務、警察事務、警察官、消防官等の職種があります。

公務員試験の種類はとて多く、**受験料は不要**です。したがって、日程さえ合えば複数の試験を受験することも可能です。試験科目の内容も各試験で異なりますが、警察官・消防官・国立大学法人職員は一般教養だけで受験できる点が要注目です。近年、人気が集まっているのは地方公務員です。地方公務員試験も自治体によって試験内容が異なります。例えば、竹原市は択一式試験に専門試験はありません。また、都道府県・政令指定都市等など地方上級試験になると、第一次試験の出題パターン（全国型、全国変形タイプ、関東型、中部・北陸型等々）があります。最近では、幅広い人材を求めて専門試験を課さない行政特別枠の試験区分も増えていて、特別枠の募集人数が通常枠よりも多い都市もあります。特別枠の試験は、学部で学んだ内容に関係なく、社会人が受験することが可能です。つまり、**受けようとする試験の日程と内容によって、どこを受験し何を勉強するかという戦略・作戦の立て方は自ずと異なってくる**わけです。

より具体的に、国家公務員試験では、総合職と一般職の職別での募集で、筆記試験合格後に希望する官庁を訪問するという点が地方公務員試験との大きな違いです。さらに、一般職の面接カードの「志望動機・受験動機」欄では、**なぜ国家公務員なのか**ということが求められています。地方公務員試験については、近年、英語資格や経歴等に応じて点数を加算する自治体が現れています。また、国家公務員と地方公務員（特に後者）で、試験内容が知識ではなく知能分野に重点が置かれ、いろいろな思考のできる人材が求められていることが窺えます。

面接等の人物試験については、例えば広島市では3回あり、配点も高くなっていることから、**その重要性が増しています**。なによりも**自分のことを自分の言葉で語る**ことが大切です。多くの学生は面接が苦手なために、質問にネガティブな答えをして卑下したり、こう言わねば、こう言うてはいけないなどと考えたり、高校生活までのことを言わなかったりと、自らを無意味に制限していることが見受けられます。そうではなく**ポジティブ思考で自分を売り込む**ことに心がけましょう。そのためには、しっかり面接する側のことを調べて、自分の**志望動機を明確**しておかなければなりません。

最後に、受講生の感想をいくつかご紹介します。

- ・漠然とした公務員へのイメージが少し現実的なものになった。
- ・採用までの流れや倍率を知ることができた。先生が勇気づけてくださった。自分でインターネット等で調べてもわからないようなことも知ることができたので、本当に参加して良かった。
- ・情報だけではなく、精神面のお話に特に勇気づけられた。
- ・公務員だけではなく民間企業にもいかせるようなことを知ることができた。

参加者：学部生 47名、教職員 3名

